



■水稲

平成28年産米の検査結果

平成28年のおうみ富士全体の米検査結果は、表の通りとなりました。

品種名	一等比率	
	28年産米	27年産米
コシヒカリ	66.39%	65.78%
キヌヒカリ	37.14%	43.56%
秋の詩	78.07%	87.65%
日本晴	39.76%	53.13%
みずかがみ	85.47%	80.12%

(平成28年11月4日現在)

当JA管内の28年産米の品質は、早生品種のみずかがみ、コシヒカリを除き、昨年より等級比率が下がる結果となりました。

28年産米の品質低下の要因としては、8月は、ほとんど雨が降らず日照りが続き、9月になり秋雨前線の停滞、台風16号の影響で順調な刈取り作

業が進まず遅れ気味となり、一部で倒伏も発生しました。

その事から、刈遅れ、登熟不良、穂発芽により、充実度、光沢による形質不良が原因と考えられます。

近年天候に左右されますが、品質向上を目指すにあたり、引き続き次の対策を総合的に実施することが大切です。

- ① 土づくりの徹底
- ② 遅植え
- ③ 疎植と細植え
- ④ 適正施肥(基肥・穂肥等)
- ⑤ 水管理(中干し、早期落水防止の徹底)
- ⑥ 適期防除

■園芸
○タマネギ

今年、べと病が全国的に大発生しました。

菌は10〜15℃で良く生育するため2月下旬〜4月上旬に防除。特に雨が多い年は予防散布しましょう。

多発すると実の肥大に影響が出るので適期散布しましょう。

- 予防剤……………ダコニール1000
- 予防・治療剤…ベトファイター
- タマネギは水をはじくため、薬剤効果を高めるには必ず展着剤を併用すること。
- 展着剤……………グラミンS
- 機能性展着剤…アブローチB-I

土の再利用



夏作や秋作が終了してそのままになっているコンテナはありませんか。今回は土の再利用について取り上げます。有機栽培では前作の野菜の残渣も土の改良に役立つ貴重な有機物として利用します。

まず、コンテナに残る前作の残渣を、根を付けたまま取り出し土を払います。(1)葉、茎、根は1〜2cmの長さに細かく刻み乾かします。このとき、残渣1ℓ当たりぼかし肥料2gを混ぜます。青みが残るものは必ず土から取り出しますが、枯れている小さな葉や細かなひげ根は土に戻します。(2)コンテナから土を取り出し、水やりや作物の根によって硬くなった土を、手でほぐしながら広げて数日間乾かしてから、目の粗いふるいで鉢底石と土に分けます。(3)今度は土を細かいふるいに掛け、細か過ぎる土を取り除きます。(4)コンテナの底に鉢底石を敷き、その上に刻んだ(1)を1〜2cmの厚さに入れますが、このとき入れ過ぎないことが重要です。(5)その上に(3)を詰めていきますが、ある程度入れたら腐葉土を厚さ2cmほど敷き、表面に米ぬかをパラパ

手軽にできる有機ベランダ栽培

ラと振ります。その上にさらに土を入れ、コンテナの9分目まで入ったら表面を平らにして完成です。

使用するまでの間は、コンテナを不織布(寒冷しや)で覆い、乾燥しないように適宜水やりをして保管します。不織布をトンネル状に設置しておく、はず口を外したじょうろの先で不織布をこするようになりますので、そのまま水やりができます。

古土の再利用のための処理は2作ごとに行うとよいでしょう。ただし、連作を嫌うナス科、マメ科、ウリ科などの野菜は、同じ科の野菜を同じコンテナで連続して栽培しないように注意します。栽培が終わったコンテナの土には必ず虫(幼虫)がいるので、見つけ出して取り除くこと、病気になる株の葉、茎、根はコンテナに戻さないことが重要です。

